

春を見つけたよ

春の草花や食べられる野草などなど、私たちの近くにある春を探してみました。



- ① 咲き始めた桜
- ② 羽化を待つジャコウアゲハのサナギ
- ③ カラスノエンドウ
- ④ スイバ
- ⑤ ホトケノザ

「私が見つけた〇〇」をお待ちしています

『みんなで見つけた西大寺の自然だより』、おかげさまで創刊以来12年目を迎えています。

地域のみなさんの投稿により、この自然だよりを、ますます楽しく豊かなものにしたいと願っております。

我が家の庭や裏の畑、近くの野山でふと見つけた驚きや気づきをぜひお知らせください。「こんなもの見つけたよ!?」「こんなものがあったよ」「〇〇がとてもきれいだったよ!」「〇〇がとてもかわいかったよ!」「季節を感じたよ」「不思議な〇〇があったよ」など、自然に関するものであれば何でもかまいません。自分の驚きや感動、思いをみんなで分かち合いませんか。

■募集期間：いつでもOK

■応募に必要なもの：①写真(できればデータで) ②名前 ③簡単な紹介文
④撮影場所と日時 ⑤連絡先

■応募方法：必要なものを直接公民館事務室へ持参、またはe-mailに添付して

■その地：集まった写真は「自然だより」に掲載するほか、公民館ロビーで展示する予定です。

■問い合わせ：下記へお気軽にお問合せください。

43号で募集した「みなさんの見つけた大きな木」も引き続きお待ちしております。

編集／『西大寺の自然だより』編集委員会

<http://www.city.okayama.jp/kouminkan/saidaiji/index.html>

Mail:saidaijikouminkan@city.okayama.lg.jp

HPからプリントアウトできます。

発行／岡山市立西大寺公民館

〒704-8115 岡山市東区向州 1-1

TEL 086-942-6252

FAX 086-942-0774

みんなで見つけた

No. 47 (H29. 4. 10)

西大寺の自然だより 春号

楽しかった自然探検

岡山市立西大寺南小学校 2年 高橋 一嘉

3月11日土曜日、自然たんけんこうぎで春をさがしに行きました。あに神社に集合して、一のみや公園まで歩きました。その日は、いつもよりあたたかかったので、本当に春が来たと思いました。

歩いているとき、大森隊長となすのおっちゃん*と、「今日はどんな虫やしょくぶつが見つけれられるかな。」とワクワクしながら話しました。

草むらには、タンポポ、つくし、アザミ、ヨモギが生えていました。テントウムシもいました。どろ水の中にはカエルのたまごがありました。

小さな川でクレソンをとっていたら、「イタチだ。」と大きな声がありました。茶色で長くて太いしっぽはフカフカでした。みんなでおいかけたけど、にげられてしまいました。

みんなでぼうけんしていると、木のトンネルを見つけました。木と木のすきまに外が見えるまどがあったり、ぬけ道があったりしました。出ると一めんにくローバーが生えていました。とてもきれいで、ねころがりたかったです。

いっぱい歩いておなかへりました。そのばしょで、クレソン、タンポポ、つくし、ヨモギ、アザミを天ぷらにしました。ぼくも、ころもをつけてあげました。タンポポが一番おいしかったです。しおをかけるとポテトチップスみたいでした。

はじめて天ぷらを作って、いい体けんをしました。またこんど、どんな自然たんけんができるか楽しみです。

*大森隊長となすのおっちゃん…自然探検講座の講師・ナビゲーター



鳴きまね名人

百間川流域愛鳥の会 山本 みずゑ

突然ですが、物まねをする鳥って何を想像しますか？セキセイインコ・オウム・九官鳥などなど。これらはペットとして飼われていて、人間に言葉などを教えられてそれを覚える鳥たちです。しかし、実は自然界で、しかも私たちの身近にいて、他の鳥の鳴きまねをする野鳥がいます。

それはモズとカケスです。モズを漢字で書くと「百舌鳥」。百の舌を持つ鳥という意味です。もちろん実際に舌が百枚あるわけではないのですが、それだけたくさんの鳥の鳴きまねができるということからついた名前です。今ちょうど鳥たちも恋の季節で、モズのオスはこの特技を生かして好きなメスに愛をささやきます。どうやら鳴きまねが上手な方が、恋が実るようです。

さて次に、カケス。カケスはカラスの仲間です。頭が良いのです。モズにくらべてレパートリーは少ないものの、私も一度林の中で見事にだまされたことがあります。林の奥から「ピーヒョロロ」とトンビの鳴き声がしたのです。トンビは空高く飛んでいる時に鳴きます。林の奥になぜトンビ



モズ

が???とふしぎに思って、声のする方へ近づくとトンビの姿はなく、一羽のカケスの姿があるだけ。おかしいな?と、かくれてじっと様子を見てみると、なんとそのカケスが「ピーヒョロロ」と鳴いたではありませんか。それを聞いたあと、おかしくて笑ってしまいました。

みなさんがハイキングなどで里山などに行く時、どうぞ鳥たちの鳴き声に耳をかたむけてみてください。もしかしたら???



カケス

カニのはなし~シオマネキとハクセンシオマネキの踊り~

干潟探偵団 もりちえ

カニの住処(すみか)はいろいろだ。海底から山の中の小さな川まで、いろいろなカニがいろいろな生き方をしている。干潟(ひがた)は、海の真ん中よりも塩水の濃さも水の深さもよく変わる場所。そんなところに住めるカニがたくさん住んでいる干潟は、カニたちの踊りを見ることができる場所でもある。

踊りの意味はいくつかあるらしいけれど、ひとつはメスをさそうもの。

乙子湿地では、シオマネキとハクセンシオマネキ両方の踊りが見られるよ。片方のハサミだけ



シオマネキ



ハクセンシオマネキのラブコール
小さいのはメス

が大きくなるところは似ているけれど、体が大きなシオマネキの踊りは、しずしずとしてゆっくり静かで日本舞踊風、小さなハクセンシオマネキは、体全身を目いっぱいそがしく動かして「ちよっとちよっとそこの子!こっち見て!見てったら!」と必死に訴えている感じのダンスだよ。

シオマネキもハクセンシオマネキも大きくなるハサミが左右どちらかに決まっているわけではない。そして、ハサミが大きくなるのはオスだけで、踊り子はみんなオスなのだ。



■撮影場所：岡山市北区津島西坂

■撮影日時：平成二十九年一月十六日午前九時

*中谷宇吉郎(なかや うきちろう) 一九〇〇年-一九六二年。石川県出身の物理学者、随筆家。

「天からの手紙」という美しい感動を残した*物理学者のことなども思い浮かべつつ。

形よく結晶が残っている雪粒を撮りに、庭先において探し物をするマクロモードの目に、はかない光の世界が飛びこんできました。朝日が当たるその瞬間にとける雪粒が水滴になり、その中にできたふしぎな泡と、そこを通った光が葉っぱにいろいろな光を次々に生み出す光景。

森 千恵

我が家の庭に「天からの手紙」〜私が見つけた光の世界〜

「私が見つけた〇〇」のコーナーに投稿をいただきました